

# 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 5 月 28 日	
所属部局・職	京都大学理学研究科・修士課程学生
氏名	福家 悠介

<b>1. 派遣国・場所</b>
日本、鹿児島県、屋久島
<b>2. 研究課題名</b>
フィールド科学実習 A
<b>3. 派遣期間</b>
平成 29 年 5 月 13 日 ~ 平成 29 年 5 月 19 日 (7 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b>
香川大学教育学部、篠原渉准教授／京都大学生態学研究センター、工藤洋教授／PWS
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b>
写真（必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの）の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回のフィールド科学実習 A では、屋久島におけるシダ植物の配偶体の標高ごとの種組成の調査を通して、野外調査の基礎的な知識と技術と、標本やデータの収集、整理、発表の方法を習得することを目的とした。また、英語で共同生活や調査、ラボワークを行うことで、英語コミュニケーションの経験を積んだ。
・実習の日程 5 月 13 日 屋久島着 14-16 日 フィールドワーク、ラボワーク 17 日 データ整理、発表準備 18 日 データ整理、発表準備、発表 19 日 屋久島発
・フィールドワークの内容 3 日間のフィールドワークでは、標高ごとにシダ類の採集を行った。初日は標高 300 m 以下の林内で数か所ポイントを決めて、その周囲でシダ類の胞子体を 1 種類ずつ、配偶体を見つけるだけ採集した。配偶体は大きくても 5 mm ほどで、極めて限られた環境からしか見つからなかったため、数を集めることが難しかった。2 日目は標高 1300 m ほどの場所でサンプリングを行った。林内は乾燥しており、湿潤環境を好む配偶体だけではなく胞子体も種数や個体数が少なかった。3 日目は標高 500~800 m ほどの場所にある溪流沿いでサンプリングを行ったが、この日だけ雨に降られた。 フィールド後は温泉で疲れを癒やし、宿に戻る道中でヤクニホンザルやヤクシカの観察を行った。
・ラボワークの内容 フィールドワークの後、宿ではサンプルの処理と標本作製を行った。胞子体は新聞紙で丁寧に挟み保管した。配偶体は後のゲノム実習で使用するため、実体顕微鏡下で土や砂を水で落とし、半分に切断し、片方を DNA サンプル用、もう一方を形態観察のための標本用として 100 %エタノールで固定・保存した。
・発表の内容 採集したシダ類の胞子体は、形態に基づいて同定を行い、計 56 種が確認された。配偶体は計 349 個採集された。それらを地点ごとに集計し、標高ごとの個体数や種数、共通種数等を明らかにした。配偶体の同定はゲノム科学実習で遺伝的手法を用いて行う。
・感想 初めての屋久島でのフィールドは新鮮な事が多く、貴重な体験ができた。英語でのコミュニケーションやディスカッションを通して、自分の英語力のなさを痛感したが、たいへん有意義であった。また、今後の勉強や研究に対するモチベーションが高まった。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



図 1. サンプルング地点の溪流



図 2. アズキガイの 1 種



図 3. シダ類の配偶体



図 4. シダ類の孢子体



図 5. サワガニ



図 6. ヤクシマサワガニ (固有種)

6. その他 (特記事項など)

本実習は、PWS リーディング大学院プログラムの支援によって実施されました。香川大学教育学部の篠原渉准教授と京大生態学研究センターの工藤洋教授には、丁寧なご指導をしていただきました。また、植物班のメンバーと本実習に関わっているすべての方にこの場を借りて御礼申し上げます。